

広報 ひろば **たいせつ**

12月号目次

平成23年産米のまとめと来年に向けて②③

平成23年度主要野菜の生育経過と
病害虫の発生状況について④

たいせつHOTニュース⑤⑥⑦

青果協議会たいせつ支部婦人研修会

「家の光大会」女性部役員が参加

青年部一泊研修 開催

東鷹栖年金友の会北陸の旅 5日間

J Aたいせつ役員道外視察研修会⑧⑨

TPPが生活に与える影響には
どんなものがあるのかな?⑩

たいせつ農産物直売所からのお知らせ⑪

理事会からのご報告、たいせつのあゆみ⑫

層雲峡温泉湯治大募集



11 / 8、9 青年部一泊研修(砂川市北海道スイコー株式会社にて)

 **たいせつ**

ホームページURL <http://www.jataisetu.or.jp/>

上川農業改良普及センターによる

平成23年産米のまとめと 来年に向けて

1 水稻の生育経過

(1) 春耕期
融雪期は平年より4日早かったのですが、その後の低温や降雨の影響で耕起や代かき作業が遅れました。また、作業を急ぐあまり湿ったほ場を無理に耕起しているところも見受けられました。

(2) 育苗期間
は種期、出芽期は平年並でしたが、4月中下旬の低温・日照不足により出芽揃いがやや不良となりました。育苗後半は生育が回復し、苗質は平年並となりました。

(3) 移植・初期生育
移植作業は平年並に終了しました。活着は良好で、分けつ始、初期生育も平年並でした。

(4) 幼穂形成期～出穂期
6月23日から27日にかけて最低気温が10度を下回ったため、幼穂形成期は2日程度遅れました。7月に入り高温多雨傾向で経過したため、障害型冷害は回避されました。出穂期は平年並で、穂揃いが良かったのですが、高温の影響で分けつが増えず、有効茎歩合が低下し穂数がやや少なくなりました。

(5) 登熟～成熟期
出穂以降は比較的高温で経過し、気温・日照ともに平年を上回り、登熟は良好でした。成熟期は平年並でしたが、収穫期の降雨により収穫作業は平年より4日遅れました。収穫後に溝切りやサブソイラ等による排水対策が多くの水田で施工されました。

2 病害虫の発生状況

育苗前半が低温・過湿で経過したことから、一部で苗立枯病が発生しました。7月下旬の日照不足と断続的な降雨と防除の遅れから、一部でいもち病が散見されました。カメムシ、ウンカの被害は軽微でしたが、局所的にフタオビコヤガの発生がありました。

3 水稻作柄の概要

(1) 農林水産省北海道農政事務所によると、は種期以降の低温・日照不足等による苗質の低下に加え、6月全般の日照不足等により平年に比べて穂数が少なく、総もみ数が少なくなりました。しかし、冷害危険期および出穂・開花期がおおむね高温・多照に経過したことから稔実の状況が良好であったことに加え、出穂・開花期以降も平年を上回る気温で経過したことから粒の肥大・充実は平年を上回り、10月15日現在の上川管内の収量は595kg/10a（作況指数107）の豊作となりました。

(2) 普及センターの調査では、米の屑米が少なく、千粒重は平年より3%ほど重くなりました。品質は整粒歩合が高く、蛋白質含有率はやや低くなりました。

《次年度に向けて》

健全な稲づくりは、健全な土づくりから。気象変動に負けない、美味しい米の安定生産に向けて、基本技術の確認と徹底を図りましょう。

(1) ほ場の融雪促進、透排水性改善を行い乾田化を図り、土壌診断に基づいた適正な窒素施肥、ケイ酸の積極的な補給に努めましょう。

(2) ほ場の乾田化に加え、側条施肥、栽植密度の適正化により初期茎数を確保しましょう。

表1 各品種の生育期節の比較（普及センター生育状況調査ほ・成苗）

	きらら397		ほしのゆめ		ゆめぴりか		ななつぼし	
	23年	平年	23年	平年	23年	平年	23年	平年
出芽期	4/24	4/24	4/24	4/24	4/24	4/24	4/24	4/24
活着期	5/29	5/29	5/29	5/29	5/29	5/29	5/29	5/29
分けつ始	6/5	6/4	6/4	6/3	6/4	6/3	6/4	6/4
幼穂形成期	6/30	6/28	6/27	6/25	6/28	6/28	6/28	6/27
止葉期	7/14	7/14	7/12	7/12	7/12	7/15	7/13	7/14
出穂始	7/24	7/22	7/22	7/20	7/22	7/22	7/23	7/22
出穂期	7/26	7/25	7/25	7/24	7/25	7/25	7/26	7/26
出穂揃	7/29	7/29	7/28	7/28	7/28	7/28	7/29	7/30
成熟期	9/12	9/11	9/7	9/7	9/9	9/13	9/9	9/14

表2 農作業の経過

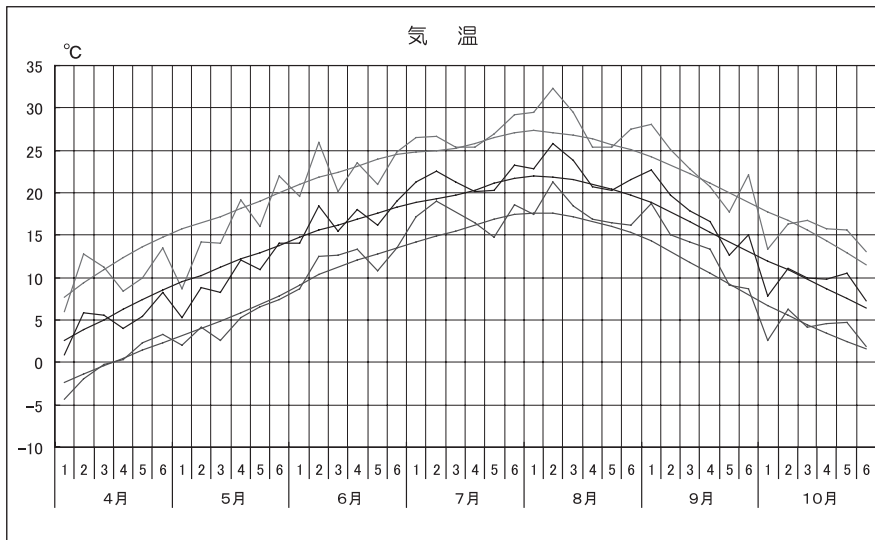
	23年	平年	差
融雪期	4/4	4/8	+4
耕起始	4/29	4/29	±0
耕起盛	5/6	5/3	-3
は種始	4/13	4/13	±0
は種終	4/16	4/17	+1
移植始	4/22	4/23	+1
移植終	5/20	5/19	-1
収穫始	5/24	5/23	-1
収穫終	5/30	5/28	-2
取収始	9/14	9/13	-1
取収終	9/21	9/21	±0
取収終	10/3	9/29	-4

表3 各品種の収量構成要素

品種名		㎡穂数 (本/㎡)	一穂粒数 (粒/本)	㎡総粒数 (粒/㎡)	稔実歩合 (%)	㎡稔実粒数 (粒/㎡)	千粒重 (g)
きらら397	23年	596	55.0	32,780	95.2	31,207	24.0
	平年	614	55.2	33,915	92.5	31,371	23.4
	平年比	97	100	97	103	99	103
ほしのゆめ	23年	624	50.1	31,262	95.9	29,980	23.4
	平年	644	50.7	32,671	91.8	29,992	22.6
	平年比	97	99	96	104	100	104
ゆめぴりか	23年	611	52.6	32,139	95.0	30,532	23.6
	平年	624	54.4	33,946	85.1	28,888	22.4
	平年比	98	97	95	112	106	105
ななつぼし	23年	579	59.2	34,277	96.6	33,112	23.2
	平年	591	57.0	33,659	90.0	30,293	22.0
	平年比	98	104	102	107	109	105

(3) 移植後は生育に合わせた適正な水管理で分けつを促進しましょう。
 (4) 自ら幼穂形成期の確認と冷害危険期を判定し、適切な深水管理で不稔発生を防ぎましょう。また、深水が可能となるように畦畔の高さを確保と補修も忘れずに。
 (5) 病害虫の発生予察を行い、適切な防除を

平成23年 農耕期間の気象経過



(観測地：旭川)

行いましょう。特に「いもち病」は耕種の防除を行い、早期発見に努めましょう。また、農薬は適正に使用し、ドリフトや危被害防止に努めましょう。
 (6) 収穫適期は必ず試し刈りした玄米で判定し、適期作業を行いましょう。
 (7) 収穫後は排水対策を徹底し、稲わらは搬出して土壌還元による生育障害や稲の窒素過剰吸収を抑制しましょう。なお、稲わらは有効利用に努めましょう。

平成23年産米集荷状況 『11月28日現在』

(単位：俵)

	きらら397	ななつぼし	ほしのゆめ	ゆめぴりか	その他	計
契約数量	151,068.0	94,846.5	25,717.0	43,484.5	3,068.5	318,184.5
所前	91,123.5	48,540.0	8,788.5	—	2,345.5	150,797.5
上川ライスターミナル	45,668.0	46,102.5	—	44,679.5	—	136,450.0
ライスセンター	21,213.0	—	14,775.0	—	—	35,988.0
計	158,004.5	94,642.5	23,563.5	44,679.5	2,345.5	323,235.5
契約数量対比	104.6%	99.8%	91.6%	102.7%	76.4%	101.6%

※上川ライスターミナル・ライスセンターは、自主検数量となっております。

J Aたいせつ 平成23年度 主要野菜の生育経過と 病害虫の発生状況について



■ 品 目 ■	■ 生育経過 ■	■ 病害虫発生状況 ■
<p>原料トマト</p> 	<p>春先の低温により、地温が十分に確保されず、定植後の生育は緩慢に経過した。収穫開始後は、1～3段目の着果率・果実肥大が良かったが、7月以降灌水や追肥の少ないほ場では草勢の低下が見られ4～6段果房の着果不良が発生した。しかし7～8段果房は着果個数も多く肥大も良好で後半に収量が伸びた。総収量は昨年を上回る。</p>	<p>6月中旬より一部ほ場にて葉カビ病の発生がみられ始めた。 前年は夏場の高温多湿による葉カビ病の蔓延が多かったが、本年は早期発見・早期防除の徹底により被害は少なかった。</p>
<p>きゅうり</p> 	<p>定植作業は例年通り4月下旬に行われたが、その後の低温・日照不足により地温が確保されず、初期生育は緩慢に経過した。そのため、根張りが悪かったほ場においては急性萎ちょう症状が見受けられた。6月末の収穫量は例年の2割程度少なく経過したが、その後生育が回復し最終的には、昨年を上回る総収量となった。</p>	<p>カッパン病については、予防中心の計画的な防除を実施されたほ場においては被害拡大が見られなかった。ベト病についても9月以降に発生が目立ったが、カッパン病との同時防除を効率的に実施したほ場では被害は軽度で発生戸数割合は前年よりも少ない。</p>
<p>ししとう なんばん</p> 	<p>定植作業は平年並みに実施されたが、定植後の低温・日照不足の影響を受け、また、草勢を確保する為、摘花・摘果を行い収穫開始は7日程度遅れた。草丈の伸長も例年よりも低めに推移し、ししとうでは摘心時期も2週間程度遅れた。総収量は昨年よりも少ない。</p>	<p>6月下旬から7月上旬の高温時期に一部ほ場で、青枯病の発生が見られたが接ぎ木苗の導入が増え例年よりも発生は少ない。一部ほ場でアザミウマ類・アブラムシ類の発生がみられた。</p>
<p>いちご (けんたろう)</p> 	<p>5月の低温・日照不足により5～7日程度生育・収穫開始が遅れた。初期の果実肥大は良好であったが、6月中旬以降小玉傾向となり全体的に収量が減少した。遮光を施したほ場では、肥大は比較的安定し、総収量の面でも有利性がみられた。</p>	<p>一部ほ場では萎黄病による萎縮・枯死による欠株が確認された。一部ほ場では収穫前半に灰色カビ病・ハダニ類が発生した。</p>
<p>たまねぎ</p> 	<p>融雪後の降雨により、ほ場の耕起が遅れ、移植作業が7日～10日程度遅れた。移植後も地温が確保されず初期生育が遅れた。初期生育の遅れは収穫期まで影響し、草丈・葉数が少なく球肥大も遅れ小玉傾向であった。</p>	<p>7月中旬以降ベト病、アザミウマ類、ハモグリバエ類の発生がみられた。軟腐病の防除が重点的になされ例年よりも発生は少ない。</p>

旭川青果物生産出荷協議会たいせつ支部 婦人研修会開催

今年はお樽で一年の労を癒す

11月8日から9日の2日間の日程で、旭川青果物生産出荷協議会たいせつ支部の婦人研修会を女性48名参加のもと開かれました。

8日午後1時頃、営農センターを出発前にバス車中で、大田会長のご挨拶をいただき、また事務局

より平成23年度の青果物販売実績や栽培の反省などを報告しました。

研修は、岩見沢市にある佐藤食品工業株式会社北海道工場を視察し、佐藤食品工業は「サトウのごはん」や「切り餅」の製造会社で、その製造ラインを社員の方の説明を聞きながら見学しました。

その後、宿泊先の朝里川温泉宏楽園に到着、食事や温泉を楽しみ一年の労を癒しました。

2日目は午前中に小



佐藤食品北海道工場視察風景

樽市内を散策した後、グランドパーク小樽でバイキングを楽しみました。昼食後は高速道路に乗り、砂川ハイウェイオアシスで休憩を取り帰路につきました。参加された会員の皆様、大変お疲れ様でした。

「家の光大会」に女性部役員が参加

11月10日から11日にかけて、ガトーキングダム・サッポロ（札幌市）で行われた「平成23年度J A北海道女性リーダー研修会・北海道家の光大会」に相澤女性部部长をはじめ4名の役員が参加しました。

1日目には、北海道地区から選ばれた3名の女性部員による「家の光記事活用体験発表」や部員達の様々なアイデアで作られた農作業着を披露する「農作業着ファッションショー」が行われました。その後行われた懇親会では、ダンスやカラオケなどのパフォーマンスもあり大変盛り上がりしました。

2日目には、各地区の女性部が日々の活動の中で作ってきた作品を展示した「手づくり工夫展」が行われました。セーターやバッグなどの手芸品、ジャムなどの加工品、エコたわしな



左から相澤部長、橋本副部長、鷲尾理事、角谷理事

ど家の光記事活用作品もあり、どれもレベルの高いものばかりでした。この2日間を通して、「家の光」がこんなにも女性部の活動に大きく影響しているのだと、とても刺激を受けた2日間でした。

青年部一泊研修開催



北海道スイコーにて研修風景

11月8日から9日の日程により、青年部一泊研修が開かれ、今年は部員18名の参加のもと、1日目は砂川市の北海道スイコー株式会社と石狩市のホクレンパールライス工場、2日目には札幌市の株式会社DNP北海道を視察しました。
なかでも、北海道スイコー株式会社では、水稻の種もみ浸水・催芽時に使用している丸型・角型容器や水を貯めたり農薬を調合したりする際に使われるタンク、水田

排水口の枳に使われている落水ボックスなどを「回転成形」という方法で製造しており、普段の営農でよく目にする資材が並べられていました。回転成形とは、金型といわれる製造する容器の型に樹脂ペレットを微粉砕した原料を投入し、バーナーや熱風などで加熱しながら回転させて原料を溶解し、金型への付着が完了した後、冷却するという方法であり、北海道では当社の他に1か所しか回転成形を導入していないという貴重な製造方法を見ることができました。
ホクレンパールライス工場では、お米の歴史や世界のお米情勢などがわかる「お米ミュージアム」やお米が精米されるまでの工程を見学しました。最新鋭の精米設備のもと「安心・安全」や「お米のおいしさ」への強いこだわりを持って行われていることが強く感じられ、部員の皆さんは来年の高品質米生産に向けての自覚と生産意欲を確認することができました。



ホクレンパールライス工場にて見学

2日目の株式会社DNP北海道では、パッケージフィルムの印刷工程を見学しました。スーパードよく目にするレトルト食品やお米・お菓子のパッケージなどを印刷しており、包装フィルムの減量化や塩素化対応など「地球に優しい素材」への転換といった環境に配慮された取り組みも行われていました。
わずか2日間の日程でしたが、普段から使っている農業資材の生産体制や「農業」と「食」に深く関わりのある研修を行うことができ、大変有意義な一泊研修となりました。

暮らしの備えは記帳から笑顔と元気は料理から



12月号
別冊付録

自給・環境・ライフプランで暮らしを築く
2012年
家の光 日記付き
家計簿



身近な素材でエコレシピ
2012年
お料理
カレンダー
366日

1月号
別冊付録

家の光

『家の光』定価(税込) 普通月号600円 付録月号(1・4・5・7・9月号)880円 家計簿付12月号980円 お申し込みはJAへ 発行:JAグループ(社)家の光協会

JATAいせつ東鷹栖年金友の会 北陸の旅(飛騨高山、白川郷、 金沢、輪島、黒部峡谷)5日間

たいせつ農協東鷹栖年金友の会では10月25日～29日の日程で北陸の旅を29名の参加により実施し、中山武団長、砂田嘉石副団長を先頭に旭川空港を出発し、羽田空港を経由して富山空港へ着きました。

1日目、飛騨高山、飛騨民族村では、昔の農村風景を形づくる民家の博物館「飛騨の里」の自然散策の後、飛騨高山の温泉で、郷土料理や、地酒で宴を盛り上げました。

2日目は、高山朝市では新鮮な野菜や果物、花などがあり、おばさんたちとの素朴なやりとり、純粹な高山ことばを聞くことができ、その後、世界文化遺産の白川郷合掌造り集落では、梁や柱に釘を使わない合掌家屋の建築物の中を歩きました。岐阜県白川村から石川県白山市まで33.3キロメートルある有料山岳道路「白山スーパール林道」を紅葉の白山、険しい溪谷の中、スリル満点で通過し、福井県あわら温泉に到着しまし

た。

3日目、断崖絶壁の東尋坊、目の前に広がる猛々しい絶壁、岩場から海を覗けば足がすくみまじた。次に九谷焼窯元では、製造工程の説明を受けたあと売店で記念の品を購入し、次に日本三名園のひとつに数えられる「兼六園」3万5千坪もの広大な園内にはさまざまな時代の庭園手法を駆使した美景を楽しみ、次に「妙立寺」人呼んで忍者寺、複雑な建築構造、多くの隠し階段、種々の仕掛けがあるので「忍者寺」と呼ばれている。アツと驚く仕掛けの数々を体験しました。

4日目、輪島朝市、物々交換から始まった一千年以上の歴史ある朝市、いろんなものが並んでいて野菜、活きのいい魚介、漁師町のおばちゃんとの会話や値段の駆け引きを体験し、次に輪島漆器工房、輪島塗の各工程に携わる職人さんたちの仕事ぶりを見学し、製造工程がすっかりしており修理がきくことから「輪島塗は一生も

の」と説明されていました。次に、白米千枚田、千枚を超える小さな棚田が海の際まで迫るように続いていて、マイ田んぼが持てるオーナー制度があり、オーナー会員は千枚田の米づくりを楽しんでいるとのことでした。巖門めぐりが岩盤を削り取ってできた貫通洞門を遊覧船めぐり、大迫力の眺めでした。その後、富山県黒部峡谷、最後の宿泊地、宇奈月温泉で郷土料理と地酒で宴を盛り上げました。

5日目、トロッコ電車で日本有数の険しさを誇る北アルプスに深く刻まれた黒部峡谷、たくさんのトンネルや鉄橋を駆け抜け終点まで20.1キロメートル、黒部峡谷でしか味わうことのできない驚きと発見に満ちた、スリル満点の旅でした。

全行程好天に恵ま

れ、多くの観光名所をめぐり、富山空港から羽田を経由して沢山のお土産と、思い出を胸に全員元気に旭川空港に到着しました。参加者の皆さんお疲れ様でした。また来年もたくさんの方の参加をお待ちしています。



道外視察研修会

J Aたいせつ役員は、10月24日から27日の4日間の日程により九州のホクレン福岡支店、J A南さつま、南さつま市を視察訪問し、情報交換及び懇談を実施しました。

■ホクレン福岡支店視察

ホクレン福岡支店は、九州7県+沖縄県を管轄しています（一部業種については山口県も含む）。九州圏(九州7県)は10%産業の地域と言われるように、人口は全国比10.4%、小売り販売額は全国比9.9%、総生産額は全国比9.4%であり、大消費地福岡を含む北部九州を中心とした10%経済の市場規模にプラス南部九州を中心とした全国19%の農業産出額を誇る大農業生産地となっています。稲作は米の生産量が全国の約1割を占める大産地でもあり、自県産カバー率が100%を超える県が多くあります。その九州での北海道農産物販売状況ですが、米については、ホクレン取扱いの約3%を販売し、そのほとんどが沖縄です。前述したように、米の生産の自県産カバー率が100%を超える九州圏の中で、沖縄のカバー率は3.6%と極端に低いからです。ホクレンによる沖縄への輸送については、大ロット(1,400トン規模)での船輸送が中心に費用の圧縮に努めています。

北海道農産物全体に言えることは、距離の長さがネックとなり、日数や輸送コストで九州圏の近隣地区より不利な状況にあります。さらに近年、物流業界全体が原油高騰や景気後退により船便航路の廃止や長距離便の減少を進め、その中で特に冷蔵・冷凍等の温度帯管理の輸送手段は窮屈となってきているので、販売できる商品が限定されている状況となっています。

九州は北海道と比較し約半分の耕地面積で1.5倍以上の農業産出額の規模を持っています。それは、九州では耕種作物・畜産物ともに高価格帯作物の産地ブランドが確立されており、全国的に見てもそのシェアは高い比率を誇っているからです。北部九州では、米を中心とした耕種作物のウエイトが高く、更に九州圏の大消費地である福岡に近いということで野菜の生産比率も高いものを有しています。南部九州では畜産系の商品ウエイトが高くなっており、県産ブランド商品が全国に流通されている状況にあります。

課題は、1990年代以降、農業産出額が減少傾向を辿っており、就農人口の減少や農業従事者の高齢化といった問題が顕著に現れてきており、今後の農業従事者の確保・育成が急務となっています。



ホクレン福岡支店
渡久山氏（左） 藤平課長（右）



ホクレン福岡支店にて研修風景

J Aたいせつ役員



J A南さつまにて研修風景



J A南さつま現地果樹園視察



J A南薩拠点霜出でん粉工場



J A南薩拠点霜出でん粉工場にて研修風景

■ J A南さつま視察

鹿児島県の南西部に位置し、南さつま市・枕崎市・南九州市の南薩地域3市にまたがる大型JAであり、本所のある知覧町は“武家屋敷”や“特攻基地”でも知られ、毎年たくさんの観光客が全国から訪れています。組合員16,367名（内、正組合員9,428名）職員632名、農畜産販売高174億円（H23.2現在）を誇ります。

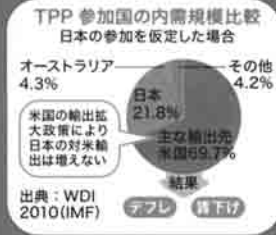
耕種部門では、温暖な気候と山間冷涼を活かしたお茶の生産が特に盛んで「全国品評会」において、数多くの賞を受賞しています。「加世田完熟かぼちゃ」、さつまいも「知覧紅」、ハウスキンカン「きんかん春姫」「たんかん」は、一大産地を形成しています。畜産部門では、何といたっても「鹿児島黒豚・黒牛」のブランドを確立しています。

■ J A南薩拠点霜出でん粉工場視察

鹿児島県の基幹作物である「でん粉原料用甘しょ」について、その主産地である薩摩半島地区における安定生産と生産農家の経営安定を目的とし、南薩摩のJA南さつま、いぶすき、日置の3JAが合同で運営する「JA南薩拠点霜出でん粉工場」が9月より本格稼働し、高品質の食品用でんぷん「薩摩甘伝」を製造しています。3JA管内には3年前まで3工場ありましたが、工場を1カ所に集約し、新システムで全工程を機械化することで異物混入を防止するなど、商品の高付加価値化で販路拡大をめざしています。総事業費33億円で、国の半額補助を受けています。

今回九州圏の農業を視察し、気候の温暖化による農作物の品質低下、鳥インフルエンザ・口蹄疫発生による畜産農家への影響、そして農業者の高齢化など様々な問題に直面しながらも、それを農畜産物の加工やブランドの確立といった付加価値をつけて乗り切っていくという地域全体の活力を感じ、それはJAたいせつにおいても参考になる点が多く、大変有意義な研修となりました。

雇用



米国からの輸入増(日本からの輸出減)による、国内雇用の減少

関税撤廃により、安い製品が大量に輸入され、さらなる価格競争がおこり、デフレの悪化・賃金の引き下げ

などのおそれがあります



TPPで雇用が増え、経済も成長するっていいけれど、デフレがひどくなったり、賃金の下がる引き金となりうるんだね

医療

国民皆保険制度が崩れ、医療費が高騰

医療サービスが自由化され、不採算地域から病院が撤退

医師・看護師などが都市部に集中し、地域医療は崩壊

などのおそれがあります



医療費が高くなったり、地方の病院がなくなるかもしれないのね

TPPが私たちの生活にあたる影響にはどんなものがあるのかな?

国家安全保障

- 離島のサトウキビ農家や、関連産業がなくなり、過疎化が進む
- 領土を守るため、自衛隊・海上保安庁の配備を強化する必要がある
- 近海の実海底資源の開発権も失う

食料自給率の低下だけでなく、国土の防衛や資源確保の面でも問題が大きいね

農業・地場産業が衰退

↓

離島の過疎化・無人化

↓

国防費の増加 など



TPPは農業・輸出産業だけの問題じゃなくて、私たちの生活のいろいろな部分に関係する、だいじな問題なんだね



TPPのことをもっと知ろう

考えようTPP

検索

<http://www.think-tpp.jp/>

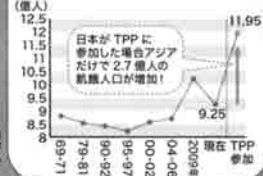
世界の飢餓・環境

日本の食料輸入が拡大し、穀物の需給バランスが崩れ、価格が高騰。アジアでは飢餓に苦しむ人が増える

その食料を生産するために、耕地開発が必要になり、環境や生態系に悪影響が

などのおそれがあります

世界の飢餓人口の推移



出典: FAO 世界の食料と農業に関する統計年報(FAO) 飢餓と食料自給率に関するデータ

アジアの人たちが飢えないためにも、日本の食料は日本で作ったほうがいいよね



残留農薬の規制緩和

ポストハーベスト(収穫後使用農薬)の規制緩和

遺伝子組み換え食品(GMO)の輸入拡大

BSE(牛海綿状脳症)のリスクがある牛肉の輸入

などのおそれがあります

国内農業が大打撃を受け、農産物の生産量が激減

減少率は、米-90%、牛肉-75%、甘味資源作物(サトウキビ等)-100%など

食料自給率は39%から13%に低下

などのおそれがあります

食料自給率激減



子どものことを考えると、やっぱり食の安全・安心はいいよね

食の安全・安心



国産の米や肉、野菜が減ってしまうのね。輸入できなくなったときが心配だし、子どもたちのためにも国産は強したいな

食料自給率

TPPから日本の食と暮らし・いのちを守るネットワーク(事務局) 東京都千代田区大手町1-3-1 TEL 03-6665-6250

たいせつ農産物直売所からのお知らせ

12月17日(土)
18日(日)

大感謝祭フェア(餅つき体験&試食会)開催!

昨年も開催しました餅つき&試食会は大変好評で、
杵と臼でついたお餅の味は格別です!
お餅の上に、あんこ・大根おろし・きなこの3種類を
のせて食べ比べしてみてください!



12月23日(金)

「鷹栖牛フェア」開催!



鷹栖牛を格安で販売いたします。
当日は鷹栖牛の試食も行います!
クリスマス前は是非、ご用意されてみてはいかがでしょうか。

新規出荷者大募集! 組合員なら誰でも出荷できます!

- ・毎日出荷できなくても構いません。
 - ・新鮮な野菜であれば少量品目でも構いません。
- 少しでも興味のある方は、直売所までお気軽にご連絡下さい。
よろしく申し上げます。

営業時間 10時~17時 定休日 毎週月曜日 ☎57-2141

定期貯金

平成23年11月1日(火)から
12月30日(金)まで

2011

冬のちょきんぎょキャンペーン

店頭金利に

上乘せ!!

1年 0.11%

3年 0.20%

5年 0.25%

『対象商品』 スーパー定期貯金
『預入金額』 お一人様一口10万円
以上の新規預け入れ
『預入期間』 1年、3年、5年

100万円以上定期貯金を
していただいた方に
ちょきんぎょ
針なしホッチキスを
プレゼント!

*個人の方のみ対象です

JAたいせつ貯金店舗

本所 旭川市東鷹栖1条3丁目 TEL 57-2345
鷹栖支所 鷹栖町北1条2丁目 TEL 87-2121

理事会からのご報告

平成二十三年十月二十日第七回理事会で次の案件について協議し承認決定されました。

- 一、全国監査機構期中監査結果の報告並びに事務整備事項の改善について
 - 二、平成二十三年産米の集荷状況について
 - 三、平成二十四年度肥料価格設定について
 - 四、東鷹栖検査場給水装置新設工事について
- 一、全国監査機構期中監査結果の報告並びに事務整備事項の改善について
 六月末基準日で八月二十九日から九月二日まで実施された期中監査の結果について報告し、事務整備を要する事項の改善について協議し、承認されました。
- 二、平成二十三年産米の集荷状況について
 今期の米の集荷状況について、網下米を含め報告説明がありました。
- 三、平成二十四年度肥料価格設定について
 肥料価格設定について報告がありました。
- 四、東鷹栖検査場給水装置新設工事について
 東鷹栖検査場に給水装置を新設することが報告され了承されました。

「たいせつ」のあゆみ

- 11月
- 11月2日 企画会議
 - 11月8日 青年部一泊研修
 - 11月8日 青果協議会婦人研修 (小樽) 9日
 - 11月24日 第8回理事会
 - 11月29日 組合員巡回ドック 12月1日



購設のお申し込みはJAへ 定額1か月 2,450円

THE JAPAN AGRICULTURAL NEWS 日本農業新聞

層雲峡温泉湯治大募集

3泊4日の湯治でお疲れをいやしませんか



日頃、農協事業に対し格別のご理解・ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。毎年ご好評をいただき実施しております「層雲峡温泉湯治」を、今年も、下記の通り計画し実施してまいりますので、みなさまお誘い合わせの上、多数ご参加いただきますようご案内申し上げます。

湯治期間
平成24年1月10日(火)～13日(金)

募集締切日
平成23年12月16日(金)

湯治代金
小学生以上お一人様
17,400円(税込)

宿泊先 **ホテル大雪**
上川郡上川町字層雲峡
電話 01658-5-3211

※一部屋4人以上でお申込ください
 ※やむを得ず2人部屋を希望される場合は3,000円割増料金になります

【お申込先】 たいせつ農業協同組合
 本所 貯金係 TEL57-2345、FAX57-2364
 鷹栖支所 貯金共済係 TEL87-2121、FAX87-2289